

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察防除情報第10号

たまねぎ ベと病の防除対策について

県内の早生・中生たまねぎでべと病の一次感染株(越年罹病株)が確認されました。今後の気象条件によっては本病が多発する可能性があります。発病株は伝染源となりますので、圃場の見回りと発病株の抜き取りの徹底等について防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

- (1) 1月21日の定点調査(諫早市20筆)で一次感染株の初発生が確認され、発病株率は0.01%(前年同時期0.04%)、発生圃場率は15.0%(前年同時期35.0%)であったが、7日後の1月28日に実施した定点調査では、発病株率は0.32%(前年同時期0.1%)、発生圃場率は60.0%(前年同時期45.0%)で、一次感染株の発病が急激に増加した。
- (2) ほとんどの発病株で胞子の形成が確認された。
- (3) 気象予報(福岡管区気象台、令和3年1月28日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. 防除対策

- (1) 圃場の見回りをこまめに行い、発病株(一次感染株)を発見したらできるだけ早く抜き取る。抜き取った株は圃場内に放置せず、胞子が周囲に飛散しないよう、その場で直ちに袋等に入れて圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) ベと病は条件が整うと感染と発病を繰り返し急激に蔓延するため、今後の気象情報等に留意し、一次感染株の見られる圃場では早急に薬剤散布を行う。また、発病が見られない圃場でも2月中下旬以降は定期的な予防散布を行う。薬剤散布量が十分でないとう効果が低下するので、薬剤には展着剤を加用し、株全体が濡れるようむらなく散布する。
- (3) 圃場の排水が悪いと本病の発生を助長するので排水対策を行う(明きよの切り直し等)。



タマネギべと病一次感染株

【一次感染株の特徴】

- ・葉身が外側に向かってわん曲している
- ・葉色は健全葉と比較して褪せたような色をしている(黄色味を帯びている)
- ・周囲の健全株に比べて生育が劣っていることが多い
- ・気象条件によっては胞子を形成している

- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

